

森川邸

森川家の旧居は、江戸時代（1603～1867）にかつて塩田だった埋め立て地に建っています。この家は1913年に塩商人として成功した森川八郎によって建てられました。彼は1924年から1936年までの12年間竹原市長を務めました。

この構造は元々、大正時代（1912～1926）の塩田経営のために設計されました。住居は、8棟で構成されていました。本館は広島県福山市から移転後、町家として再建されました。建築様式は江戸時代後期にさかのぼり、森川家の卓越性とその富を反映しています。

入り口には、製塩プロセスの歴史的な白黒写真と、操業ピーク時に製塩作業で使用されたツールが展示されています。写真は、入浜塩田（塩田を作るために浜辺を氾濫させる製塩方法）の手法を紹介しています。

広々とした畳の部屋と、四季折々に楽しめる花や木々が生い茂る広い中庭が特徴の広い家。庭園にある優雅な茶室は、茶師であり茶園のデザイナーである小堀政一（1579-1647）のスタイルを踏襲した茶師である不二庵によって設計されたと言われています。また、森川邸は竹原市重要文化財に指定されています。